



傘寿の記念とリハビリの目標に！

「紙人形100体展」開催中！

9月5日（金曜）まで、杉並区役所（阿佐谷南1 - 15 - 1）2階区民ギャラリーで「紙人形100体展」（無料）を開催しています。これは、区内在住の平倉美都子さん（80歳）が、傘寿の記念と、右手骨折に伴うリハビリの目標に出展したものです。和紙で作られた紙人形はどれもやわらかな表情で、見る人の心を和ませています。

9月5日（金曜）まで、杉並区役所2階区民ギャラリーでは、「紙人形100体展」を開催しています。紙人形は、ワイヤーで作った骨組みに、脱脂綿と雁皮紙（和紙）をまいて体と顔にします。これに強制紙（和紙）の衣服をまとわせて作ります。「紙人形100体展」では、こうして制作された高さ約12センチ～20センチほどの紙人形100体が、「子供達の遊び」「ヨーロッパの街角風景」「名画より」などのテーマに合わせ展示されています。例えば、「子供達の遊び」では、西瓜割りや焚火をする子どもたち、「ヨーロッパの街角風景」では、通りを駆ける子どもや店で働く人たち、「名画より」では、フェルメールの作品から「牛乳を注ぐ女」などが作られています。どれも和紙が生み出すやわらかな人形の表情や温もりが、見る人の心を和ませてくれます。

これらの作品を制作しているのは、区内在住の平倉美都子さんです。平倉さんは20代の頃、偶然ラジオで知った紙人形に興味を持ち、紙人形作家である故・石垣駒子氏に師事。師範の免状を取り、10年以上、紙人形教室を開催した後、創作活動に専念するようになりました。以来、約40年にわたり、子どもたちの遊んでいる様子や、絵本・写真などを見てイメージを膨らまし、様々な作品を作ってきました。

しかし、去年の暮れ、右手を骨折。リハビリ生活を送ることになりました。思うように紙人形が作れないのは悲しい、悔しい。そこで、目標を持てばリハビリも頑張れるのではないかと。また、傘寿の記念にもなるのではないかと、家族や友人の勧めもあり、区が文化・芸術作品等の発表の場として設置する区民ギャラリーに申し込み、紙人形の展示を行うことにしました。

実際にリハビリしながら創作できたのは、全体の3分の2ほどですが、展示できたことに平倉さんは大きな喜びを感じています。「紙人形の温かさで、区役所を訪れた人が癒されてくれれば嬉しいです」と話しています。



紙人形百体展

【期間】9月5日（金曜）まで 土日はお休み

【時間】9時～17時 最終日は15時まで

【場所】杉並区役所2階区民ギャラリー（住所：阿佐谷南1 - 15 - 1）

【問い合わせ先】

区民生活部文化交流課、総務部広報課

TEL：3312 - 2111（代表）